

1. 総論

【総括判断】「管内経済は、一部に弱さがみられるものの、緩やかに回復しつつある」

項目	前回（6年4月判断）	今回（6年7月判断）	前回比較
総括判断	一部に弱さがみられるものの、緩やかに回復しつつある	一部に弱さがみられるものの、緩やかに回復しつつある	→

（注）6年7月判断は、前回6年4月判断以降、足下の状況までを含めた期間で判断している。

（判断の要点）

個人消費は、一部に弱さがみられるものの、緩やかに回復しつつある。生産活動は、持ち直しに向けたテンポが緩やかになっている。雇用情勢は、緩やかに改善しつつある。

【各項目の判断】

項目	前回（6年4月判断）	今回（6年7月判断）	前回比較
----	------------	------------	------

個人消費	乗用車販売減少の影響等がみられるものの、緩やかに回復しつつある	一部に弱さがみられるものの、緩やかに回復しつつある	→
生産活動	持ち直しに向けたテンポが緩やかになっている	持ち直しに向けたテンポが緩やかになっている	→
雇用情勢	緩やかに改善しつつある	緩やかに改善しつつある	→

設備投資	5年度は前年度を上回る見込み	6年度は前年度を上回る見込み	→
企業収益	5年度は減益見込み	6年度は減益見込み	→
企業の景況感	「下降」超に転じている	「下降」超幅が縮小している	→
住宅建設	前年を下回る	前年を下回る	→
輸出	前年を上回る	前年を上回る	→

【先行き】

先行きについては、雇用・所得環境が改善する下で、各種政策の効果もあって、緩やかな回復が続くことが期待される。ただし、欧米における高い金利水準の継続や中国における不動産市場の停滞の継続に伴う影響など、海外景気の下振れが景気を下押しするリスクとなっている。また、物価上昇、中東地域をめぐる情勢、金融資本市場の変動等の影響に十分注意する必要がある。

2. 各論

■ 個人消費 「一部に弱さがみられるものの、緩やかに回復しつつある」

業態別にみると、百貨店販売は、衣料品などが低調であり、前年を下回っている。家電大型専門店販売は、冷蔵庫などが低調であり、前年を下回っている。ドラッグストア販売は、季節商品や化粧品などが好調であり、前年を上回っている。スーパー販売は、節約志向がみられるものの、単価の伸びが売上げを押し上げ、前年を上回っている。乗用車販売（新車登録・届出台数）は、自動車認証不正取得問題などの影響により普通乗用車、小型自動車、軽自動車いずれも、前年を下回っている。このように、個人消費は、全体では、一部に弱さがみられるものの、緩やかに回復しつつある。

（主なヒアリング結果）

- 春先の季節外れの気温や、物価高の影響を受け、衣料品が低調であった。（百貨店）
- 冷蔵庫は、モデルチェンジに伴う販売価格の上昇により、故障しても修理して使い、買い替えを先送りする人が増えている。（家電大型専門店）
- 梅雨入りが例年よりも遅く、日焼け止めや制汗剤などの季節商品が好調。外出機会の増加によりメイク用品も好調なほか、新店効果や値上げにより、客数・売上げとも伸長している。（ドラッグストア）
- 低価格なPB商品へのシフトなど節約志向がみられるものの、価格上昇や野菜の相場高が売上げ増加に寄与している。（スーパー）
- 完成車メーカーからの供給が増加し、自動車認証不正取得問題などの影響から回復してきているものの、登録台数は前年を下回っている。（自動車販売）

■ 生産活動 「持ち直しに向けたテンポが緩やかになっている」

輸送機械、汎用・業務用・生産用機械は、海外向けの需要が堅調なことなどから増加している。鉄鋼は、アジア圏での市況低迷の影響などからおおむね横ばいとなっている。一方、化学は、インフラ向けの需要が低調なことなどから減少している。電気機械は、海外向けの需要低迷などから減少している。このように、生産活動は、全体では、持ち直しに向けたテンポが緩やかになっている。

- 主に北米向けの受注が好調となっており、生産量が増加している。（輸送機械）
- 海外EV向けの需要が堅調なほか、生成AIの需要拡大などから、生産量が増加している。（生産用機械）
- アジア圏での市況低迷を背景に海外向けが低調な一方で、旅客需要伸長により航空機関連向けの需要が堅調となっている。（鉄鋼）
- 人件費や資材価格の高騰による建設コストの上昇により建設需要が低迷していることなどから、インフラ向けの生産量が減少している。（化学）
- 海外のスマートフォン市況は買い替え期間が長期化しており、生産が回復していない。（電気機械）

■ 雇用情勢 「緩やかに改善しつつある」

有効求人倍率は、緩やかに低下している。民間職業紹介における求人件数は、堅調に推移している。企業の人手不足感は、法人企業景気予測調査（6年4-6月期）の従業員数判断BSIでみると、いずれの規模においても、また、製造業・非製造業いずれにおいても「不足気味」超となっている。このように、雇用情勢は、緩やかに改善しつつある。

- 技術職については、他企業との競争もあり、若手の採用に苦戦している。今後は、外国人技能実習生の定期的な受け入れを計画しており、継続して勤務してもらえるような環境整備や、日本語習得を支援する予定。（他輸送機械）
- 多くの旅館・ホテルで従業員の人手不足が深刻であり、休館日を設けたり、稼働率を落とすことで対応している。求人募集を出しても反応が無く、一人当たりの業務量が増加している。（旅館組合）
- 中途採用に加え新卒採用についてもスカウト型の求人が増加。費用は嵩むが、学生とのマッチング率を上げて、採用業務を効率化する企業が増えている。（人材・職業紹介）

- 設備投資 「6年度は前年度を上回る見込み」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」6年4-6月期
 - 製造業では、「情報通信機械」などで減少するものの、「化学」、「自動車」などで増加することから、全体では前年度を上回る見込みとなっている。
 - 非製造業では、「農林水産」などで減少するものの、「電気・ガス・水道」、「小売」などで増加することから、全体では前年度を上回る見込みとなっている。

- 電動化に向けた設備投資の実施。(自動車)
- 発電関連の設備投資を実施。(電気・ガス・水道)

- 企業収益 「6年度は減益見込み」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」6年4-6月期
 - 製造業では、「化学」、「その他の製造」などで増益となるものの、「生産用機械」、「その他の輸送用機械」などで減益となることから、全体では減益見込みとなっている。
 - 非製造業(除く「電気・ガス・水道業」、「金融業、保険業」)では、「小売」、「宿泊・飲食サービス」などで増益となるものの、「学術研究、専門・技術サービス」、「運輸、郵便」などで減益となることから、全体では減益見込みとなっている。

- 企業の景況感 「『下降』超幅が縮小している」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」6年4-6月期
 - 企業の景況判断BSIは、「下降」超幅が縮小している。なお、先行きは「上昇」超に転じる見通しとなっている。

- 住宅建設 「前年を下回る」
 - 新設住宅着工戸数でみると、貸家、給与住宅などが減少していることから、前年を下回っている。

- 輸出 「前年を上回る」
 - 輸出(円ベース)は、石油製品などが減少しているものの、自動車、一般機械などが増加していることから、前年を上回っている。地域別では、大洋州などで減少しているものの、北米、アジアなどで増加している。
 - なお、輸入(円ベース)は、原油及び粗油、石炭などが減少していることから、前年を下回っている。地域別では、中東、大洋州などで減少している。

3. 各県の総括判断

	前回(6年4月判断)	今回(6年7月判断)	前回比較	総括判断の要点
広島県	一部に弱さがみられるものの、緩やかに回復しつつある	一部に弱さがみられるものの、緩やかに回復しつつある	→	個人消費は、一部に弱さがみられるものの、緩やかに回復しつつある。生産活動は、一部に強さがみられるものの、持ち直しに向けたテンポが緩やかになっている。雇用情勢は、緩やかに改善しつつある。
鳥取県	持ち直しのテンポが緩やかになっている	持ち直しのテンポが緩やかになっている	→	個人消費は、持ち直している。生産活動は、足踏みの状況にある。雇用情勢は、弱含んでいる。
島根県	緩やかに持ち直している	一部に弱さがみられるものの、緩やかに持ち直している	→	個人消費は、一部に弱さがみられるものの、持ち直している。生産活動は、一部に弱い動きがみられ、一進一退の状況にある。雇用情勢は、持ち直しの動きに一服感がみられる。
岡山県	緩やかに回復しつつある	緩やかに回復しつつある	→	個人消費は、一部に弱さがみられるものの、緩やかに回復しつつある。生産活動は、足踏みの状況にある。雇用情勢は、緩やかに改善しつつある。
山口県	緩やかに回復しつつある	緩やかに回復しつつある	→	個人消費は、緩やかに回復しつつある。生産活動は、持ち直しに向けたテンポが緩やかになっている。雇用情勢は、緩やかに改善しつつある。